

前号の紹介

JICE REPORT 第39号

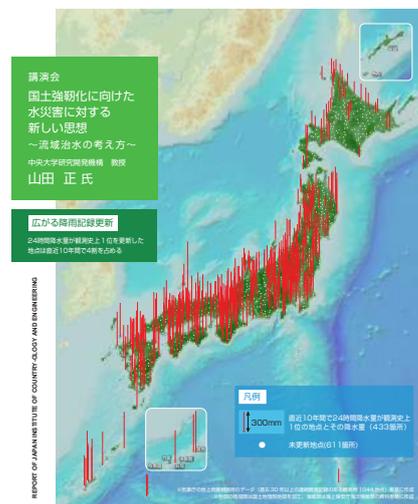
表紙 広がる降雨記録更新

表紙は、地上雨量計の観測データ*1に基づき、2011年から2020年までの10年間に、24時間降水量の観測史上1位の値を更新した地点とその降水量を示している。観測地点1,044か所のうち、4割以上にあたる433か所（41.4%）で値を更新している。

中でも、令和元年東日本台風（台風第19号）は、記録的な大雨をもたらし、関東甲信地方や東北地方など、103地点で24時間降水量の観測史上1位の値を更新し、140か所の堤防が決壊等して河川が氾濫した。地球温暖化に伴う気候変動の影響により、今後さらに大雨や短時間強雨の発生頻度、降水量が増加することが予測されており、大規模な水害の発生が懸念される。

令和2年7月にとりまとめられた「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について」の答申では、流域のあらゆる関係者が協働して「水害を軽減させる流域治水」の考え方に基づく水災害対策を推進することが示された。気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、施設能力を超える洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える水防災意識社会の再構築を一歩進め、流域治水への転換を推進し、防災・減災が主流となる社会を目指すことが求められている。

JICE REPORT 39



コンテンツ

JICEレポート39号について

研究報告

- 流域治水に関する取組と展開 ～千葉県一宮川の検討を例として～
- 企業等における事業継続のための水害対応版 BCP の取組について
- 総合土砂管理の現状と今後の展望について
- 立地適正化計画における防災指針を活用した事前防災型まちづくりの提案
- 道路維持管理の高度化・効率化に向けた ICT 等の新技術の活用のおすすめ
- コンクリート工の生産性向上および地方への普及促進に向けた課題と展望
- With コロナ・カーボンニュートラル時代における政策立案の際の視点

国土政策研究所 講演会

国土強靱化に向けた水災害に対する新しい思想 ～流域治水の考え方～
中央大学研究開発機構 教授 / 山田 正氏

事業紹介・事業報告

JICE 研究開発助成について

*1 気象庁が公開している地上雨量計の観測データで過去30年以上連続した記録があるもの。

参考として、2001年から2010年までの10年間に日降水量の観測史上1位の値を更新した地点は303か所、2011年から2020年までの10年間に更新した地点は383か所であり、直近10年間の方が更新のペースが速くなっている。